

平成23年度

教育委員会活動の点検・評価報告書

平成23年11月

松阪市教育委員会

目 次

I	はじめに	1
II	松阪市教育ビジョンに係る「夢ナビゲーション」別の事業評価	2
	1 事業評価	
	2 総評	
III	各事業の達成度、重要度、総合評価、事業年度、決算額一覧表	3～5
	評価シート	6～48
IV	教育委員会の活動状況	49～50
	1 活動状況	
	2 今後の取り組み	
V	第三者評価（学識経験者の知見の活用）	51～52
	1 第三者評価委員	
	2 第三者評価結果について	
	3 第三者評価の総評	

I はじめに

松阪市教育委員会は、平成19年12月に将来の松阪市を担う子どもたちをはじめすべての市民が暮らしやすい、「質の高い教育・文化にふれあうまちづくり」をめざし、今後10年間の松阪市の教育のあるべき姿を構築する「松阪市教育ビジョン」を策定しました。

松阪市教育ビジョンは、「夢を育み 未来を切り拓く松阪の人づくり」を基本理念とし、誰もが心に抱いている「夢」をかなえていくための道案内を「夢ナビゲーション」と名付け、「松阪に育ったことを誇りとし、世界の人々とともに生きる子ども」「思いやりをもち、自分らしさを発揮し、行動できる子ども」「じっくり考え、自ら表現し、学び続けようとする子ども」の3つの子ども像を実現するため、「学びの芽生えを育む就学前教育の充実」「学びの基礎を育む教育の充実」「市民による、市民のための生涯学習の推進」「個性あふれる文化・芸術の振興」「明るい生活を支えるスポーツライフの実現」「新しい教育の創造」の6つの夢ナビゲーションを策定したものであり、教育委員会は、これに基づき、学校教育、家庭教育、社会教育などの教育機能の充実・連携を図るとともに、市民の文化活動やスポーツ活動の機会の充実と質的向上に努めているところです。

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、各教育委員会は、毎年、その教育行政事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが規定されました。

そこで、松阪市教育委員会では、法の趣旨に則り、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民の皆様へ説明責任を果たすため、平成19年度の事務事業から「教育委員会活動の点検・評価」（以下、「点検・評価」という。）の対象を「松阪市教育ビジョン」の6つの「夢ナビゲーション」とし、点検・評価を実施し、報告書にまとめ、公表してきました。今回は、平成22年度の事務事業について、昨年度の点検・評価の第三者評価による指摘事項を参考に、次の点を改善してまとめました。

- ・「松阪市教育ビジョン」は、10年間を目途とした中・長期的ビジョンであるので、単年度では評価できない事業も多いことから、事業の目標設定と各年度の達成状況がわかるように、進捗度の項目を加えました。
- ・事業規模がわかりやすいように、予算額、決算額を加えました。
- ・達成度と重要度をわかりやすく表記しました。
- ・点検、評価の対象を、平成22年度における教育委員会の主要な施策・事業としました。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務〔前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。〕の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 松阪市教育ビジョンに係る「夢ナビゲーション」別の事業評価

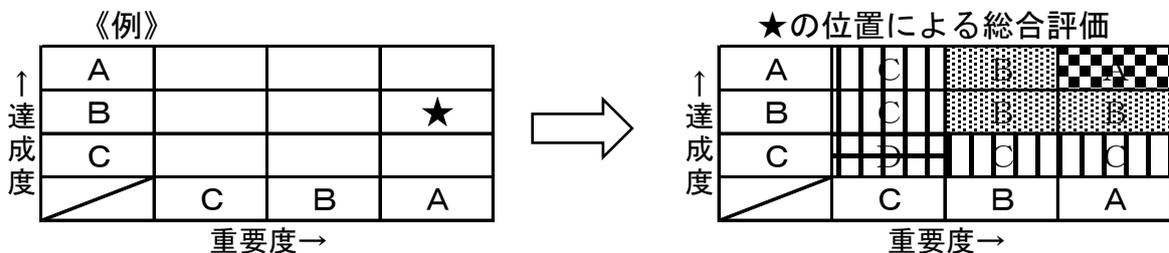
1 事業評価

「夢ナビゲーション」別に各事業の事業目的、事業内容、検討課題、当該年度の取組、改善案・方向性と複数年にわたる事業の場合は進捗度等を点検・評価し、達成度と重要度を表にして表しました。

【達成度】 A：「達成できた」
B：「概ね達成できた」
C：「達成できなかった」

【重要度】 A：「非常に重要」
B：「重要」
C：「やや重要」

【総合評価】 A：計画どおりに事業を進めることが適当
B：目的の達成に努め、計画どおりに事業を進めることが適当
C：事業の進め方に改善が必要
D：事業規模、内容の見直しが必要



2 総評

6つの夢ナビゲーション別のそれぞれの事業の達成度は、概ね「達成できた」であり、今後も、さらに「達成できた」を目ざし、継続的に取り組んでいきます。

また、厳しい財政状況の中、どの事業も重要度は高いものばかりです。今後、さらに厳しくなることが予想される中で、事業の重要度、達成度等を見極めながら、子どもたちや市民のために、「質の高い教育、文化にふれあうまちづくり」を実現するために各事業の取り組みを進めます。

Ⅲ 各事業の達成度、重要度、総合評価、事業年度、決算額一覧表

(1) 学びの芽生えを育む就学前教育の充実

シート番号	担当課	事業名	達成度	重要度	総合評価	事業年度	決算額(千円)
1	学校支援課	特色ある学校・園づくり推進事業	B	A	B	平成22年度	15,043
2	学校支援課	教育研究指定助成事業(学力向上推進プロジェクト事業)	B	A	B	平成22年度	1,768
3	子ども支援研究センター	教育相談事業	B	A	B	平成22年度	219
4	子ども支援研究センター	心のカウンセラー相談員配置事業	B	A	B	平成22年度	1,974
5	子ども支援研究センター	教職員研修事業	A	A	A	平成22年度	639
6	子ども支援研究センター	乳幼児教育研修事業	A	A	A	平成22年度	300

(2) 学びの基礎を育む教育の充実

シート番号	担当課	事業名	達成度	重要度	総合評価	事業年度	決算額(千円)
1	学校支援課	特色ある学校・園づくり推進事業	B	A	B	平成22年度	15,043
2	学校支援課	教育研究指定助成事業(学力向上推進プロジェクト事業)	B	A	B	平成22年度	1,768
3	子ども支援研究センター	教育相談事業	B	A	B	平成22年度	219
4	子ども支援研究センター	心のカウンセラー相談員配置事業	B	A	B	平成22年度	1,974
5	子ども支援研究センター	教職員研修事業	A	A	A	平成22年度	639
7	子ども支援研究センター	教育支援センター推進事業	B	A	B	平成22年度	2,394
8	学校支援課	読書室いきいきプラン事業	B	A	B	平成22年度	21,420
9	学校支援課	外国語指導助手(ALT)派遣事業	B	A	B	平成22年度	29,750
10	学校支援課	まつさか夢交流事業	B	B	B	平成20年度～平成24年度	2,131
11	人権まなび課	外国人児童生徒受入促進事業	B	A	B	平成22年度	5,495
12	人権まなび課	外国人児童生徒いきいきサポート事業	A	A	A	平成22年度	10,184

シート 番号	担当課	事業名	達成度	重要度	総合 評価	事業年度	決算額 (千円)
13	人権まなび課	部落史編さん事業	A	A	A	平成22年度	6,104
14	育ちサポート室	育ちサポート推進事業	B	A	B	平成22年度	11,983
15	給食管理課	学校給食単独調理場備品等整備事業	B	A	B	平成22年度	9,299
16	給食管理課	学校給食センター備品等整備事業	B	A	B	平成22年度	8,378

(3) 市民による、市民のための生涯学習の推進

シート 番号	担当課	事業名	達成度	重要度	総合 評価	事業年度	決算額 (千円)
17	人権まなび課	人権学習推進事業	B	A	B	平成22年度	4,553
18	いきがい学習課	新成人のつどい開催事業	A	A	A	平成22年度	455
19	いきがい学習課	青少年健全育成事業	A	A	A	平成22年度	4,573
20	いきがい学習課	こどもまつり大会事業	A	A	A	平成22年度	1,634
21	いきがい学習課	図書館管理運営事業	A	A	A	平成21年度～平成25年度	123,258
22	いきがい学習課	生涯学習振興事業	A	A	A	平成22年度	13,570

(4) 個性あふれる文化・芸術の振興

シート 番号	担当課	事業名	達成度	重要度	総合 評価	事業年度	決算額 (千円)
23	文化課	市美術展覧会開催事業	B	A	B	平成22年度	2,217
24	文化課	歴史的建造物公開事業	B	A	B	平成22年度	2,691
25	文化課	天白遺跡保存整備事業	B	A	B	平成21年度～平成22年度	19,966
26	文化課	松阪城跡保存管理計画策定事業	B	A	B	平成21年度～平成23年度	785
27	文化課	文化財保存整備事業	B	A	B	平成20年度～平成22年度	27,724
28	文化課	原田二郎旧宅保存整備活用事業	B	A	B	平成22年度～平成24年度	30,492

シート 番号	担当課	事業名	達成度	重要度	総合 評価	事業年度	決算額 (千円)
29	文化課	長谷川家文書調査事業	B	A	B	平成20年度～平成24年度	3,006
30	文化課	嬉野ふるさと会館施設整備事業	B	A	B	平成22年度	10,767
31	文化課	松浦武四郎誕生地保存整備活用検討事業	B	A	B	平成21年度～平成26年度	507

(5) 明るい生活を支えるスポーツライフの実現

シート 番号	担当課	事業名	達成度	重要度	総合 評価	事業年度	決算額 (千円)
32	スポーツ振興課	全国大会等出場派遣支援事業	A	A	A	平成22年度	7,620
33	スポーツ振興課	スポーツ大会等運営事業	A	A	A	平成22年度	2,350
34	スポーツ振興課	シティマラソン大会事業	A	A	A	平成22年度	3,000
35	スポーツ振興課	体育施設整備事業	A	A	A	平成22年度	4,970
36	中部台管理 事務所	中部台運動公園施設整備事業	A	A	A	平成22年度	577

(6) 新しい教育の創造

シート 番号	担当課	事業名	達成度	重要度	総合 評価	事業年度	決算額 (千円)
37	教育総務課	地域材活用学校環境整備事業	A	A	A	平成22年度	40,711
38	教育総務課	豊地幼稚園園舎耐震事業	A	A	A	平成21年度～平成22年度	12,915
39	教育総務課	中原幼稚園園舎改築事業	B	A	B	平成22年度～平成23年度	5,004
40	教育総務課	中川小学校校舎増築事業	A	A	A	平成21年度～平成22年度	198,579
41	教育総務課	松ヶ崎小学校プール改築事業	A	A	A	平成21年度～平成22年度	55,081
42	教育総務課	嬉野中学校屋内運動場耐震事業	B	A	B	平成22年度～平成23年度	5,060
43	教育総務課	中学校施設維持修繕事業	A	A	A	平成22年度	20,522

評価シート

番号	1
----	---

点検評価対象テーマ【学びの芽生えを育む就学前教育の充実】

【学びの基礎を育む教育の充実】

事業名	特色ある学校・園づくり推進事業			↑ 達成度	重要度 →		
					A	B	C
担当課	学校支援課	事業年度	平成22年度				★
予算・決算	平成21年度決算	15,200 千円	平成22年度決算	15,043 千円	平成23年度予算	15,040 千円	
事業目的	各学校・幼稚園において、幼児児童生徒や地域の実態に即した特色ある教育・学校づくりを推進するための創意工夫に満ちた特色かつ魅力ある教育活動を実施し、幼児児童生徒の生きる力の育成を図る。						
事業内容	<p>学習指導要領、幼稚園教育要領に基づき、松阪市教育ビジョンの実現を図るための特色ある教育活動を各小中学校や幼稚園で展開し、様々な体験活動を通して生きる力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業、林業等体験、職業体験、国際理解教育、環境教育等の実施 ・授業力向上のための講師招聘 ・郷土を愛する心を育てる教育の推進（幼稚園22園、小学校36校、中学校12校を対象） 						
複数年にわたる事業の場合進捗度等	幼児児童生徒の実態、地域の実情に応じた教育活動を毎年行うことができ、幼児児童生徒の生きる力の育成に資している。単年度契約(市長と推進委員長)であり、前年度の成果と課題に基づき次年度の活動につなげている。						
検討課題	特色ある学校・園づくり推進事業の目的が地域や保護者のみなさんにもよく周知され、地域の人材をはじめとする教育資源の活用や、個に応じた指導等各学校・園の実態に即した教育活動が推進できるようになってきた。さらに、地域や保護者のみなさんに支援していただきながら本事業が推進できるよう情報発信をしていく必要がある。						
当該年度の取組	<p>松阪市教育ビジョン、学校教育の方針に示されている教育内容の実現を図るための事業の展開を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・・・地域での体験活動、絵本の読み聞かせ、野菜や花作り等の栽培活動、近隣の幼稚園・小学校との交流など ・小学校・・・太鼓やしよんがい踊り等の体験活動、稲作等の農業体験、CRT、読書活動など ・中学校・・・太鼓等の体験活動、福祉体験、職業体験、読書活動、など 						
改善案・方向性	松阪市教育ビジョンの実現に向け、地域の教育資源の活用や個に応じた指導など各学校・園の状況を踏まえ、教育活動を行うことにより、保護者・地域から信頼される学校・園づくりを推進していく。						

評価シート

番号	2
----	---

点検評価対象テーマ【学びの芽生えを育む就学前教育の充実】

【学びの基礎を育む教育の充実】

事業名	教育研究指定助成事業(学力向上推進プロジェクト事業)				↑ 達成度	重要度 →		
	担当課	学校支援課	事業年度	平成22年度		A	B	C
事業目的	<p>・各中学校区において幼小中が連携し、就学前から小学校、中学校までの子どもの発達段階に応じて、「確かな学力」の向上、「豊かな心」の心の育成を図ることを目指し、目標や課題を設定し、それらの解決、達成に向けた取組を推進する。</p>							★
事業内容	<p>・子どもの実態に応じた「めざす子ども像」などの指導重点項目も設定 ・効果的な指導方法及び評価方法等の研究を進めるための校区運営プランの作成 ・幼小中が継続的に指導できるためのツールの開発と工夫 ・指導観の共有を図るための教員研修や授業交流の実施</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<p>平成19年度以来、毎年2中学校程度を指定校区とし、松阪市の幼小中連携教育が本格的にスタートした。校区のめざす子ども像や共通テーマ、それぞれの発達段階ごとに育てたい力を設定し、互いの保育・授業を参観し合ったり、合同で授業を行ったり、また、授業体験やクラブ体験、先輩質問会などを実施したりと、それぞれの地域の特色を生かした取組を進めてきているところである。</p>							
検討課題	<p>松阪市の各中学校区は、1小1中が隣接している校区、1小1中で地理的に離れた校区、複数幼・複数小・1中の校区等とそれぞれ状況が違っている。それぞれの地域や子どもたちの実態を踏まえ、各中学校区において、幼稚園・小学校・中学校が連携し、学力向上にむけた一貫した教育活動の推進を図るとともに、保育園との連携、保護者・地域の啓発等を進める必要がある。</p>							
当該年度の取組	<p>幼小中連携教育モデル校区に4校区(平成21・22年度西中・三雲中学校区、平成22・23年度は大江中・嬉野中学校区)を指定して、校区の特色に応じた連携教育を推進した。 1月には、中間報告会を実施し、大江中・嬉野中学校区の取組を市内教職員に成果を発信した。また、11月には、西中・三雲中学校区が実践発表会を開催し、市内外教職員に成果を発信した。また、各校区においても、教職員交流や幼児児童生徒交流など、校区の「めざす子ども像」をもとにした取組が進められている。</p>							
改善案・方向性	<p>各中学校区の特色を生かし、幼稚園・小学校・中学校が連携し、学力向上にむけた一貫した教育活動の推進を図るとともに、教職員や幼児児童生徒の交流などを通して保育園との連携を深めたり、学校だより等を通して保護者・地域への啓発を行ったりするなど、保護者や地域への理解を深める。</p>							
予算・決算	平成21年度決算	1,757 千円	平成22年度決算	1,768 千円	平成23年度予算	2,120 千円		

評価シート

番号	3
----	---

点検評価対象テーマ【学びの芽生えを育む就学前教育の充実】

【学びの基礎を育む教育の充実】

事業名	教育相談事業			↑ 達成度	重要度 →		
					A		
担当課	子ども支援研究センター	事業年度	平成22年度		B		★
					C		
予算・決算	平成21年度決算	266千円	平成22年度決算	219千円	平成23年度予算	2,397千円	
事業目的	悩みを抱えた幼児児童生徒及び保護者・教職員等に対して、教育相談を行うことにより、個々の課題解決に向けての歩みを支援する。						
事業内容	幼児児童生徒の生活や心の問題等について、子どもや保護者・教職員への教育相談を実施し、支援を行う。 ・面接相談、電話相談 ・第3土曜相談						
複数年にわたる事業の場合進捗度等							
検討課題	子どもたちの心の問題は大きな社会問題となっており、相談内容は、多様化・複雑化してきている。適切な見立てと対応を進めていくため、相談担当者の力量を高めるとともに、カウンセラー相談を含めた相談支援体制の充実を図っていく必要がある。						
当該年度の取組	幼児児童生徒の生活や心の問題等について、子どもや保護者・教職員への教育相談を実施し、支援を行った。 ・相談延べ件数 564件(面接 444件、電話 120件)						
改善案・方向性	相談担当者とカウンセラーの連携により、相談支援をより有効的に進めていくため、平成22年度まで別事業で実施していた、「心のカウンセラー相談員配置事業」を、平成23年度より、本事業に統合して実施し、相談事業を1本化する。						

評価シート

番号	4
----	---

点検評価対象テーマ【学びの芽生えを育む就学前教育の充実】

【学びの基礎を育む教育の充実】

事業名	心のカウンセラー相談員配置事業				↑ 達成度	重要度 →		
	担当課	事業年度	平成22年度			A	B	C
事業名	心のカウンセラー相談員配置事業					A		
担当課	子ども支援研究センター	事業年度	平成22年度			B		★
						C	B	A
予算・決算	平成21年度決算	1,564千円	平成22年度決算	1,974千円	平成23年度予算	0千円		
事業目的	<p>困難な課題を抱えた幼児児童生徒や保護者・教職員が、より専門的なカウンセリングやコンサルテーションを受けることにより、課題解決をめざす。</p>							
事業内容	<p>心のカウンセラー相談員を3ヶ所に配置し、心やからだの問題等でより困難な課題を抱えた幼児児童生徒や保護者・教職員に対して、専門家によるカウンセリングを実施し、支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども支援研究センター(臨床心理士3名がローテーション、半日月6回) ・嬉野教育事務所(臨床心理士1名、半日月1回) ・飯南教育事務所(教育カウンセラー1名、半日月1回) 							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	<p>子どもや保護者が抱える心の課題はその背景とともに複雑化・多様化し、専門的な視点からの見立てや心理臨床的対応が必要とされるケースが増加している。申し込みがあった時点での早期対応や、定期的・継続的なカウンセリングの実施が有効な支援方法であるが、相談ニーズに十分に応じ切れていない現状がある。</p>							
当該年度の取組	<p>臨床心理士等専門性を有したカウンセラーによる相談を3ヶ所(子ども支援研究センター・嬉野教育事務所・飯南教育事務所)で実施し、困難な課題を抱えた幼児児童生徒及び保護者・教職員への支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談実施回数 96回 ・相談延べ件数 266件 							
改善案・方向性	<p>カウンセラーと教育相談担当職員の連携により、相談支援をより有効的に進めていくため、平成23年度より、本事業を「教育相談事業」に統合し、相談事業を1本化して実施する。子どもたちの心の問題等に関して、専門家への相談ニーズは高く、適切に応じていくために、臨床心理士によるカウンセラー相談の実施回数を増やすなど、相談体制の充実を図っていく必要がある。</p>							

評価シート

番号	5
----	---

点検評価対象テーマ【学びの芽生えを育む就学前教育の充実】

【学びの基礎を育む教育の充実】

事業名	教職員研修事業			↑ 達成度	重要度 →		
					A		★
担当課	子ども支援研究センター	事業年度	平成22年度		B		
予算・決算	平成21年度決算	638千円	平成22年度決算	639千円	C	C	B
			平成23年度予算	1,370千円			A
事業目的	教職員の指導力向上を図ることにより、幼児児童生徒の学習効果や園・学校生活での満足度を高め、地域・保護者の信頼を得る。						
事業内容	幼稚園・小中学校の教職員を対象に、日常の教育実践や教育研究、あるいは教育実践上の問題解決に役立つ研修の場を提供する。 ・教科・領域別研修講座、教育課題研修講座等						
複数年にわたる事業の場合進捗度等							
検討課題	指導力・授業力の向上が強く求められており、新学習指導要領実施に伴う教育内容の改善事項や今日的な教育課題、教職員のニーズ等に即した講座内容及び実施方法を創意工夫し、教職員の資質向上に有効に結びつく講座構築を進めていく。						
当該年度の取組	夏季休業中を中心に、幼稚園・小中学校の教職員を対象にして30講座を実施し、教職員の指導力向上に寄与した。 ・延べ受講者数 2,297人 ・参加者の受講満足度 96%						
改善案・方向性	平成22年度まで別事業で実施していた、保育士・幼稚園・小学校教職員対象の「乳幼児教育研修事業」を、保・幼・小・中連携の重要性から、平成23年度より、本事業に統合して実施し、研修事業を1本化する。						

評価シート

番号	6
----	---

点検評価対象テーマ【 学びの芽生えを育む就学前教育の充実 】

事業名	乳幼児教育研修事業				↑ 達成度	重要度 →		
	担当課	子ども支援研究センター	事業年度	平成22年度		A	B	★
予算・決算	平成21年度決算	505千円	平成22年度決算	300千円		C	B	A
事業目的	乳幼児保育・教育や子育てを支援することにより、心身ともに健全な子どもの育成を図る。							
事業内容	こども未来課との連携により、就学前教育施設・保育園・幼稚園・小学校の保育士・教職員等及び保護者を対象に、乳幼児保育・教育や子ども理解、子育て支援に役立つ研修の場を提供する。							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	乳幼児期における保育・教育は、生涯にわたる人間形成の基礎を培うために大切であり、保育から教育への連携を大事に、保育士や教職員が共通の子ども理解を持って実践が進められるよう、資質向上を図っていく必要がある。							
当該年度の取組	保育士や幼稚園・小学校の教職員及び保護者を対象に、講演会や実習・実技講習会等5講座を実施し、保育士や教職員等の資質向上を図った。 ・延べ受講者数 650人 ・参加者の受講満足度 95%							
改善案・方向性	小中学校の教職員にも積極的な参加を求め、保育から教育への連携を大事にした研修として位置づけていくため、平成23年度より、本事業を「教職員研修事業」に統合し、研修事業を1本化して実施する。							

評価シート

番号	7
----	---

点検評価対象テーマ【 学びの基礎を育む教育の充実 】

事業名	教育支援センター推進事業				↑ 達成度	重要度 →		
	担当課	子ども支援研究センター	事業年度	平成22年度		A	B	C
予算・決算	平成21年度決算	2,468千円	平成22年度決算	2,394千円	平成23年度予算	2,374千円		
事業目的	教育支援センターにおいて、不登校児童生徒一人ひとりの状態に応じた学校復帰や社会的自立に向けての支援を行う。							
事業内容	「鈴の森教室」「うれしの教室」のそれぞれの特性を生かして、不登校児童生徒の安心できる居場所を提供し、集団生活への適応、情緒の安定、基礎学力の補充、基本的な生活習慣の改善等のための相談・通室指導等による支援を行う。							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	不登校児童生徒の抱える問題や生活背景は多様化・複雑化しており、周囲と人間関係を築きにくく個別対応が必要な児童生徒が増加している。学校や関係諸機関と連携のもと、個々の心の課題に応じた支援を進めていけるよう、支援体制の充実を図る必要がある。							
当該年度の取組	<p>「鈴の森教室」と「うれしの教室」において、不登校児童生徒の通室指導や保護者・関係者への相談等を実施し、学校復帰や出席日数の改善を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談及び通室指導対象児童生徒数 100人（改善率 70%） ・相談延べ件数 2,808件 ・通室延べ人数 3,469人 							
改善案・方向性	深い子ども理解に基づいて適切な支援を実施していくために、指導員の力量をより一層高め、効果的な支援の方向性を探っていく必要がある。							

評価シート

番号	8
----	---

点検評価対象テーマ【 学びの基礎を育む教育の充実 】

事業名	読書室いきいきプラン事業			↑ 達成度	重要度 →		
	A						
担当課	学校支援課	事業年度	平成22年度	B			★
				C			
予算・決算	平成21年度決算	23,350 千円	平成22年度決算		C	B	A
事業目的	中央教育審議会答申、新学習指導要領に示されているように、言語活動の充実は各教科等を貫く重要な内容である。そのために読書活動の推進は必要不可欠であり、学校読書室の活用や環境の整備を行い、児童生徒の読書活動の充実を図る必要がある。						
事業内容	学校の読書室に図書館司書を配置し、図書の整備を図るとともに、児童生徒に対し、読書案内や図書の貸出し返却業務、読書室環境整備を行うことにより、児童生徒の読書活動の活性化を図る。						
複数年にわたる事業の場合進捗度等	新市に合併前から行っている事業であり、ほぼ順調に目的を達成している。						
検討課題	各学校の読書室の整備、読書量の向上は喫緊の課題である。児童生徒が読書室を活用し、読書をする機会を増やしていくために、現在の事業を基盤にしながら、地域ボランティアの活用も視野に入れた取組を推進する。						
当該年度の取組	①カウンター業務 ②資料整備業務 ③学校読書室内整備業務 ④読書活動推進業務 ⑤学校読書室での学習サポート業務 ⑥相互貸借のサポート業務 ⑦図書委員会のサポート業務 など						
改善案・方向性	児童生徒の読解力、思考力を養うため、読書量の向上を図ることは極めて重要である。児童生徒が使いやすい読書室をめざして整備していくとともに、読書室が学校における教育センターとして機能できるようにしていく必要がある。 また、本の読み聞かせなどの地域ボランティアの協力を得るなど、並行して本にふれる活動を積極的に進めていく必要がある。						

評価シート

番号	9
----	---

点検評価対象テーマ【学びの基礎を育む教育の充実】

事業名	外国語指導助手(ALT)派遣事業			↑ 達成度	重要度 →		
					A		
担当課	学校支援課	事業年度	平成22年度		B		★
					C	B	A
予算・決算	平成21年度決算	28,297 千円	平成22年度決算	29,750 千円	平成23年度予算	31,219 千円	
事業目的	<p>松阪市内の中学校において、外国語教科の指導補助を行うとともに、小学校の外国語活動において、外国語やその表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力を育成するため、また、幼稚園においてもさまざまな活動に参加し外国文化にふれあう機会を提供する。学校・園での国際化推進を図るとともに、外国語(英語)によるコミュニケーション能力の向上を目指す。</p>						
事業内容	<p>上記目的の達成のために、非常勤職員の雇用及び民間業者への委託を行い、外国語指導助手を7名派遣する。</p>						
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<p>外国語教育の重要性はますます高くなってきている。児童生徒のコミュニケーション能力は向上しており、この事業の成果として確実に表れてきている。</p>						
検討課題	<p>本年度の小学校の5.6年生での外国語活動必修化に伴い、ALT派遣の要望はさらに高まっている。また、中学校においても、コミュニケーション能力や言語活動の充実が叫ばれる中、外国語(英語)教科の重要性は再認識されている。中学校の外国語教育及び小学校の外国語活動、また総合的な学習の時間における国際理解教育の推進といったことにさらなる充実を図っていく必要がある。 また、民間業者委託については、派遣労働法との関連で、今後クーリングオフの期間をどうするか、という問題が生じている。子どもたちの学習環境の確保を第一に考えながら、この課題についても検討していく必要がある。</p>						
当該年度の取組	<p>中学校の英語科、小学校の外国語活動や総合的な学習の時間における外国語教科・外国語活動・国際理解教育の補助をおこなう。また、幼稚園に派遣し、ふれあいを通して国際理解教育の充実を図る。</p>						
改善案・方向性	<p>学習指導要領の改訂に伴い、本年度より小学校において外国語活動が導入され、第5学年、第6学年で週1時間実施されている。それに伴い、ALT派遣回数増の要望は高まっている。今後さらに外国語指導助手の派遣を充実していく必要がある。</p>						

評価シート

番号	10
----	----

点検評価対象テーマ【学びの基礎を育む教育の充実】

事業名	まつさか夢交流事業				↑ 達成度	重要度 →		
	担当課	学校支援課	事業年度	平成20年度～平成24年度		A	B	C
予算・決算	平成21年度決算	503 千円	平成22年度決算	2,131 千円	平成23年度予算	1,905 千円		
事業目的	<p>松阪市教育ビジョンに示されている「世界とふれあう、世界とつながる国際理解教育の推進」や「ふるさと松阪に学ぶ教育の推進」の実現を図るため、中華人民共和国江蘇省無錫市濱湖区や北海道川上郡弟子屈町との学校間交流を行う。</p>							
事業内容	<p>【濱湖区との交流】(濱湖区と松阪市は、友好都市提携を結んでいる。) ・港小学校・殿町中学校を濱湖区学校間交流実施校として指定 ・手紙交流、ビデオレター、学校紹介などの交流 ・濱湖区の学校への訪問、松阪市への招待により、地域文化や芸術交流スポーツ交流などを実施 【弟子屈町との交流】(弟子屈町は、松浦武四郎ゆかりの地である。) ・小野江小学校・三雲中学校を弟子屈町の小中学校との交流校として指定 ・学校・地域紹介、作品交流等</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<p>本事業は、平成20年度に「友好都市交流事業」としてスタートした。平成21年度以降は、「まつさか夢交流事業」と改名し、事業を展開している。平成20年度は、「松阪市・濱湖区児童生徒合同作品展」を実施。平成21年度より、実施校がそれぞれ、交流を進めており、その成果を学校行事等で発信している。</p>							
検討課題	<p>・学校における国際理解教育・異文化理解・自文化理解について学習を深めるとともに、世界に学び広い視野で物事を考えることのできる子どもを育てる観点から、各校の実態及び意思を尊重し、指定校を広げていくことも必要。 ・観光交流課、松阪国際交流協会、松浦武四郎記念館等関係機関と連携を深め、当事業を推進する。 ・交流実施校での取組を松阪市内の小中学校に発信し、各校において特色ある教育の充実を図る。</p>							
当該年度の取組	<p>濱湖区や弟子屈町についての学習を年間計画に基づき行い、国際理解やふるさと松阪についての教育の推進を図った。濱湖区との交流では、交流実施校の代表児童生徒が訪中し、そこで学んだことを、全校集会や文化祭等で発表し、保護者や地域の方に国際交流の意義を知らせた。教育委員会主催のイベントで訪問についての発表をし、広く市民(約800名)に発信し、「世界とふれあう、世界とつながる国際理解教育の推進」や「ふるさと松阪に学ぶ教育の推進」の実現を諮るとともに理解を求めた。 弟子屈町との交流では、弟子屈小学校に、地域の様子を壁新聞にしたものや、手紙や野菜を「夢交流」ボックスとして贈り、コミュニケーション能力や郷土を愛する気持ちの育成につながった。</p>							
改善案・方向性	<p>学校教育において、「我が国と郷土の現状と歴史について、正しい理解に導き、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」が学校教育法に掲げられており、交流実施校を広げたり、取組を発信したりして、国内外の他地域に対する文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を各校の特色を生かし、支援を行う。</p>							

評価シート

番号	11
----	----

点検評価対象テーマ【学びの基礎を育む教育の充実】

事業名	外国人児童生徒受入促進事業			↑ 達成度	重要度 →		
					A		
担当課	人権まなび課	事業年度	平成22年度		B		★
					C	B	A
予算・決算	平成21年度決算	千円	平成22年度決算	5,495千円	平成23年度予算	5,444千円	
事業目的	三重大学、愛知淑徳大学等関係機関の指導、助言、協力を受け、小中学校における外国人児童生徒の受入体制の整備及び自国の歴史や文化に誇りをもち、互いの違いを認め合いながら共に生きていこうとする子どもの育成を図るための調査研究を行う。						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・運営協議会(事業計画の立案、検討、課題改善策の協議)の開催 ・プロジェクト会議(具体的な取組みについての計画、検討、改善等を協議)の開催 ・ネットワーク会議(取り組み内容や教材など全市的に共有化)の開催 ・小中学校指導補助 <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業の公開 ・高校見学バス研修、先進地視察 <ul style="list-style-type: none"> ・就学前集中プレスクールの開催 ・教職員合同研修会等 ・フォトストーリーづくり(自分の夢や宝物を映像にまとめ地域に発信)の実施 						
複数年にわたる事業の場合進捗度等	平成22年度から県補助事業(補助率2/3)の新規事業として実施。外国人児童生徒の在籍が広域化している中で、全市的に小中学校への受入体制整備のため課題を発掘しながら調査研究を継続していく。						
検討課題	外国人児童生徒教育担当者だけでなく、学校全体で外国人児童生徒教育を推進していく体制づくり						
当該年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・運営協議会の開催(開催数:2回) ・プロジェクト会議の開催(開催数:4回) ・ネットワーク会議の開催(開催数:3回) ・小中学校指導補助の実施(483回 2,152時間) ・研究授業の公開、多文化理解授業の実施(4回) ・高校見学バス研修(見学場所:県内3高等学校、参加者:児童生徒24人・保護者8人・通訳等14人) ・先進地視察(視察場所:豊橋市立南部中学校・カンチーニョ学園、参加者:教職員等17人) ・就学前集中プレスクールの開催(開催数:18回、参加幼児数:12名) ・教職員合同研修会等(開催数:4回、参加者数:187名) ・フォトストーリーづくりの実施(参加児童生徒数:12名) 						
改善案・方向性	センター校、準センター校で進める実践を全市的に広げていく。						

評価シート

番号	12
----	----

点検評価対象テーマ【学びの基礎を育む教育の充実】

事業名	外国人児童生徒いきいきサポート事業			↑ 達成度	重要度 →		
					A		★
担当課	人権まなび課	事業年度	平成22年度		B		
予算・決算	平成21年度決算	9,626千円	平成22年度決算	10,184千円	平成23年度予算	11,430千円	A
事業目的	外国人児童生徒の増加、広域化に伴う、外国人児童生徒の初期の適応支援及び日本語指導等により学校生活での不安を解消するとともに、高等学校進学や就職など進路指導に関する支援を行う。						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 外国人児童生徒のための初期適応支援教室「いっぽ」の開設。 放課後日本語教室「にじ」の実施。 小中学校巡回指導補助の実施。 進路ガイダンスの開催。 						
複数年にわたる事業の場合進捗度等	初期の適応支援及び日本語指導においては、初期適応支援教室「いっぽ」を中心に充実が図られ定着してきた。現在も外国人児童生徒の増加、在学する学校の広域化の状況が続いており、継続的に実施していく必要がある。						
検討課題	初期適応支援教室「いっぽ」の通級児童生徒の増減に応じたスタッフの配置や広域化する在籍児童生徒の状況に応じたスタッフの適切な配置。						
当該年度の取組	<p>市内在住の外国人15名を雇用し、外国人児童生徒の学校生活の適応支援及び日本語学習支援等を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 初期適応支援教室「いっぽ」・・・通級児童生徒数44名 内修了児童生徒数34名 放課後日本語教室「にじ」等・・・開催数45回 参加者数106名 小中学校巡回指導補助・・・小学校11校 中学校4校 支援状況995回 4296時間 進路ガイダンス・・・開催数1回 参加者数122名 						
改善案・方向性	これまでの取組みの成果として外国人児童生徒教育の「松阪モデル」を発信するとともに外国人児童生徒の在籍状況に応じた支援体制の充実を図る。						

評価シート

番号	13
----	----

点検評価対象テーマ【学びの基礎を育む教育の充実】

事業名	部落史編さん事業			↑ 達成度	→ 重要度		
					A		★
担当課	人権まなび課	事業年度	平成22年度		B		
予算・決算	平成21年度決算	2,703千円	平成22年度決算	6,104千円	平成23年度予算	6,350千円	A
事業目的	史実に基づき、被差別部落の歴史を正確に把握し、差別の不合理性を明らかにし部落差別の解消と人権教育推進を図る。						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・編さん委員会・編集委員会の開催 ・部落史を活用した研修会の開催 ・松阪の部落史編さん計画に基づき近現代史料編等の史料収集、史料検討、史料整理 ・第一巻「前近代史料編」の販売等 						
複数年にわたる事業の場合進捗度等	平成19年度に『松阪の部落史』前近代史料編を発刊し、平成21年度に計画の見直しを行い、新しい「松阪の部落史編さん計画」を策定した。編さん計画に基づき近・現代史料編等の史料調査、収集等を行い最終年度に完成させたい。						
検討課題	『松阪の部落史』の積極的な活用方法の検討						
当該年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・松阪の部落史編さん計画に基づき近現代史料編等の史料収集、史料検討、史料整理 ・編さん委員会の開催(2月) ・編集委員会の開催(5月、7月、11月) ・部落史を活用した研修会の開催(参加者:第1回88人、第2回85人) ・松阪の部落史研修会講演記録の発行(2回×2,000部) 						
改善案・方向性	松阪の部落史編さん計画に基づき編集作業を進める。						

点検評価対象テーマ【 学びの基礎を育む教育の充実 】

事業名	育ちサポート推進事業				↑ 達成度	重要度 →		
	担当課	事業年度	平成22年度			A	B	C
事業目的	育ちサポート室	事業年度	平成22年度					★
予算・決算	平成21年度決算	千円	平成22年度決算	11,983千円	平成23年度予算	C	B	A
事業目的	<p>社会が急激に変化する中で、子どもたちが安心して成長できる、また、子どもたちを安心して育てられる環境の整備を目的とする。特に、今日、子どもの「発達」に関する支援が大きな課題となっており、子どもの育ちを途切れなく支援していくことが大切な目的となる。</p>							
事業内容	<p>子どもの「発達」に関する業務を行う保健、福祉及び教育の各部局が、相互に緊密な連携をとりながら、「発達」に関する相談の窓口となり、発達障がい児に対し、就学前就学後にかかわらず、できるだけ早期に、継続的に、また、その状況に応じて適切に発達支援を行うとともに、保護者や保育・教育関係者に対しても支援を行う。</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<p>平成22年8月に育ちサポート室を開設し事業の実施。業務内容の見直しや学校支援課・人権まなび課・こども未来課・福祉課・健康推進課等の関連部局との連携方法についての検討を行い、市民にとってより利用しやすい相談支援組織としての改善を進める。</p>							
検討課題	<p>新しい組織であり、市民への周知がまだまだ必要である。関連部署との連携方法、業務分担については、十分な検討と改善を進め、市民にとってより利用しやすく効率的な体制を整備していくことが重要である。今後、相談等の支援ニーズの増加が想定される中で、相談体制のより一層の充実も大きな課題となっている。</p>							
当該年度の取組	<p>子どもの「発達」に関する相談窓口、子どもの相談における関係機関へのつなぎと連携・コーディネート、「発達障がい」に関する相談・検査、幼児健康診査及びその関連事業との連携、障がい児福祉相談等の福祉事業との連携、障がい児就学支援委員会・障がい児保育支援委員会、発達に関する個人情報の保管共有 など</p>							
改善案・方向性	<p>昨年度までの取り組みに加えて、幼稚園を含めた障がい児保育支援委員会の取り組みを行うことにより、就学前の教育・保育支援の充実を図る。また、ホームページの改善や新規パンフレットの作成等により育ちサポート室のより一層の周知を図る。</p>							

評価シート

番号	15
----	----

点検評価対象テーマ【学びの基礎を育む教育の充実】

事業名	学校給食単独調理場備品等整備事業費				↑ 達成度	重要度 →		
						A		
担当課	給食管理課	事業年度	平成22年度		B			★
予算・決算	平成21年度決算	9,163千円	平成22年度決算	9,299千円	C	B	A	
事業目的	作業能率及び衛生管理の向上を図るために、学校給食備品の整備を行う。							
事業内容	給食施設の衛生管理基準に沿った施設の改善及び給食備品・什器の更新を図る。 ＜対象となる調理場＞ 本庁管内24小学校(単独調理場)							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	安全・安心な給食の運営には、近代的な厨房備品を整備することが必要であるが、高価なため、年次計画で整備しなければならない。							
当該年度の取組	各単独調理場において衛生管理基準に基づいた給食用備品等を購入した。 ＜主な購入物品＞ ・真空冷却機(幸小)、消毒保管庫(射和小)の設置 ・シンク(第四小、漕代小、松江小)の設置							
改善案・方向性	学校給食備品の充実のみならず、食器についての更新も随時行っていく。給食用食器は取扱いがハードになるため、硬くて丈夫、そして優れた保温性と衛生的な食器が要求される。割れ、欠けなどの機能的な問題や、長期使用による劣化等で衛生上問題が生じた時を取替え時とし、随時更新していく。							

評価シート

番号	16
----	----

点検評価対象テーマ【学びの基礎を育む教育の充実】

事業名	学校給食センター備品等整備事業費			↑ 達成度	重要度 →		
					A		
担当課	給食管理課	事業年度	平成22年度		B		★
					C		
予算・決算	平成21年度決算	1,518千円	平成22年度決算	8,378千円	平成23年度予算	3,871千円	
事業目的	作業能率及び衛生管理の向上を図るために、学校給食備品の整備を行う。						
事業内容	給食施設の衛生管理基準に沿った施設の改善及び給食備品・什器の更新を図る。 <対象となる学校給食センター> 学校給食センターベルランチ 嬉野学校給食センター 三雲学校給食センター 飯南学校給食センター 飯高学校給食センター(宮前・森調理場)						
複数年にわたる事業の場合進捗度等							
検討課題	安全・安心な給食の運営には、近代的な厨房備品を整備することが必要であるが、高価なため、年次計画で整備しなければならない。						
当該年度の取組	各学校給食センターにおいて衛生管理基準に基づいた給食用備品等を購入した。 <主な購入物品> ・コンベクションオープン(三雲) ・業務用ガス給湯器(三雲)の設置						
改善案・方向性	学校給食備品の充実のみならず、食器についての更新も随時行っていく。給食用食器は取扱いがハードになるため、硬くて丈夫、そして優れた保温性と衛生的な食器が要求される。割れ、欠けなどの機能的な問題や、長期使用による劣化等で衛生上問題が生じた時を取替え時とし、随時更新していく。						

評価シート

番号	17
----	----

点検評価対象テーマ【市民による市民のための生涯学習の推進】

事業名	人権学習推進事業			↑ 達成度	重要度 →		
					A		
担当課	人権まなび課	事業年度	平成22年度		B		★
					C	B	A
予算・決算	平成21年度決算	5, 111千円	平成22年度決算	4, 553千円	平成23年度予算	9, 615千円	
事業目的	人権に関する学習機会の充実を図り学習・啓発活動を行う。						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・人権講座(住民の人権教育のリーダー養成)の開催 ・人権講演会(住民主体の人権教育の推進)の開催 ・人権啓発映画会の開催 ・日本語教室の実施 ・人権啓発冊子(講演記録のまとめ)の発行 						
複数年にわたる事業の場合進捗度等	さまざまな機会を利用しながらさまざまな人権課題について学習機会を提供することで、人権意識の高揚を図ってきたが、社会の背景の変化や地域の課題に即した人権学習の機会提供を継続して実施していく。						
検討課題	市民一人ひとりの人権意識が、態度や行動に結ぶつく効果的な教育・学習活動の充実						
当該年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・人権講座(住民の人権教育のリーダー養成)の開催(開催数:60回、参加者数:1, 397名) ・人権講演会(住民主体の人権教育の推進)の開催(開催数:27回、参加者数:3, 273名) ・人権啓発映画会の開催(開催数:2回、参加者数:379名) ・日本語教室の実施(開催数44回、参加者数:290名) ・人権啓発冊子(講演記録のまとめ)の発行 5, 000部 						
改善案・方向性	社会的な背景の変化等を見極めながら状況に応じた人権課題についての講演会等の実施により住民が主体となって人権教育を推進していけるよう支援していく。						

評価シート

番号	18
----	----

点検評価対象テーマ【市民による、市民のための生涯学習の推進】

事業名	新成人のつどい開催事業				↑ 達成度	重要度 →		
	担当課	事業年度	平成22年度			A	B	★
事業内容	いきがい学習課	事業年度	平成22年度		C	B	A	
予算・決算	平成21年度決算	2,453 千円	平成22年度決算	455 千円	平成23年度予算	645 千円		
事業目的	新成人を祝い大人としての責任と自覚を促す場として、ひとりひとりが心に残る新成人のつどいを開催する。							
事業内容	新成人を中心としたメンバーが実行委員会を組織し、成人式全般の企画や運営、PRなどをするために、9月下旬から取り組んでおり、オープニングセレモニー、市長祝辞、新成人謝辞、恩師のビデオメッセージ等を実施している。新たに大人社会の一員となる新成人が、これまで育ててくれた人々や社会に感謝し、成人となることの社会的責任を自覚して大人としての行動をとっていくためのきっかけの場として、また、未来に向かってたくましく生きていこうとする彼らを、広く市民が祝い励ます場として開催。							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	新成人による実行委員の応募が毎年少なく、学校の連携・協力が不可欠であることや、会場での参加者のマナーの問題等があげられる。							
当該年度の取組	日 時:平成23年1月9日(日)午前10時～午前11時30分 場 所:松阪市民文化会館 対 象:平成2年4月2日～平成3年4月1日までに生まれた方 参加人数:1,372人(住民登録者数 1,635人) 住民登録者数に対して 83.9%							
改善案・方向性	現状の実行委員会は新成人のみの脆弱な組織体であり、その組織を確固なものにすべく、新成人OBや学校との連携等を強化することで、実行委員会の組織強化のために支援していきたい。							

評価シート

番号	19
----	----

点検評価対象テーマ【市民による、市民のための生涯学習の推進】

事業名	青少年健全育成事業			↑ 達成度	重要度 →		
					A		★
担当課	いきがい学習課	事業年度	平成22年度		B		
					C	B	A
予算・決算	平成21年度決算	5,338 千円	平成22年度決算	4,573 千円	平成23年度予算	6,420 千円	
事業目的	<p>松阪の将来を担う青少年の健全育成を図るため、次代の担い手である青少年が心身ともに健全に育つ環境づくりをめざし、健全育成活動の推進と環境整備を行う。</p>						
事業内容	<p>松阪市と22地区の青少年健全育成会が連携して、青少年育成のつどい講演会、家庭教育講演会、非行防止パトロール、環境浄化活動等を実施し、併せて各地区育成会が主催する、地区パトロール・各地区健全育成会講演会・クリーン作戦や啓発看板設置等の環境浄化活動等の事業に対して業務委託を締結して青少年の健全育成の推進を図る。</p>						
複数年にわたる事業の場合進捗度等							
検討課題	<p>青少年健全育成事業内容の精査と事務の簡素化。</p>						
当該年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ○青少年育成のつどい講演会の開催 平成22年12月15日 松阪コミュニティ文化センター ○家庭教育講演会・子ども体験教室等の開催 ○市内22育成会にそれぞれの地域にあった健全育成活動を業務委託 						
改善案・方向性	<p>子どもの健全育成のために今後も事業を推進していくが、関係団体等の理解を得て、さらに一層の事業精査、事務改善を図っていく。</p>						

評価シート

番号	20
----	----

点検評価対象テーマ【市民による、市民のための生涯学習の推進】

事業名	こどもまつり大会事業			↑ 達成度	重要度 →		
					A		★
担当課	いきがい学習課	事業年度	平成22年度		B		
予算・決算	平成21年度決算	2,218 千円	平成22年度決算	1,634 千円	平成23年度予算	1,838 千円	A
事業目的	創作や遊びを通じて、郷土の将来を担う子どもたちの育成を図る。						
事業内容	創作や遊びを通じて、子どもたちが家族や友達と一日楽しく過ごすことができる催し物を提供する。						
複数年にわたる事業の場合進捗度等							
検討課題	参加団体による実行委員会を組織し、そのなかに部門別責任者を設け、各部門の企画や取りまとめを主体的に実施しつつあるが、参加団体はすべてボランティアであるため、全体のとりまとめや運営については、事務局である行政が行っている。行政としては、動員者数を減らす等事務の効率化に努めているが、事業全体をまとめる立場から、事業費を減らすことは難しく、職員の負担を減らすのが難しい状況にある。						
当該年度の取組	中部台運動公園芝生広場(雨天時:総合体育館)において、ステージ・たべる・つくる・あそぶの各ブースで、子どもたちの楽器演奏や踊り、各種バザー(焼そば・フライドポテト・かき氷・うどん等)や粘土あそび・木工教室やもちつき体験、サッカーゲームや白バイ展示等を関係機関・団体の協力を得て、開催。						
改善案・方向性	出展内容の充実・精査を行う。また、実行委員会の開催回数の削減及び各部門別責任者の配置とその部門別協議の開催等において、事務の軽減・コストの削減を図る。						

評価シート

番号	21
----	----

点検評価対象テーマ【市民による、市民のための生涯学習の推進】

事業名	図書館管理運営事業				↑ 達成度	重要度 →																										
						A		★																								
担当課	いきがい学習課	事業年度	平成22年度～平成25年度		B																											
					C																											
予算・決算	平成21年度決算	123,405千円	平成22年度決算	123,258千円	平成23年度予算	C	B	A																								
事業目的	図書館施設(松阪図書館・嬉野図書館)を適法・適正に管理し、施設利用者のサービスの向上を図る。																															
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者制度の導入、図書館コンピューターの利用により、図書館業務の効率化と迅速化を推進した。 ・高度情報化社会の多様なニーズに対応するため、蔵書等の充実を図った。 ・松阪市子ども読書活動推進計画により、ブックスタート事業やボランティアの協力を得て、「絵本の読み聞かせ」等を開催し、子どものための読書活動を推進した。 																															
複数年にわたる事業の場合進捗度等	指定管理者制度の導入により、平成21年度から25年度までの5か年間で、(株)図書館流通センター(TRC)に管理業務委託をし、経費面等での図書館業務の効率化と蔵書の充実等の住民ニーズを把握した住民サービスの向上(満足度)に関して順調に達成しつつある。																															
検討課題	松阪図書館の経年劣化による施設の維持管理経費																															
当該年度の取組	○平成22年度 各図書館(室)における利用状況等																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>貸出冊数(冊)</th> <th>利用者数(人)</th> <th colspan="2"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>松阪図書館</td> <td>520,107</td> <td>111,359</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>嬉野図書館</td> <td>252,382</td> <td>55,506</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>三雲図書室</td> <td>14,848</td> <td>4,426</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>787,337</td> <td>171,291</td> <td colspan="2"></td> </tr> </tbody> </table>									貸出冊数(冊)	利用者数(人)			松阪図書館	520,107	111,359			嬉野図書館	252,382	55,506			三雲図書室	14,848	4,426			計	787,337	171,291	
	貸出冊数(冊)	利用者数(人)																														
松阪図書館	520,107	111,359																														
嬉野図書館	252,382	55,506																														
三雲図書室	14,848	4,426																														
計	787,337	171,291																														
○平成22年度各図書館(室)における図書購入内訳																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>一般図書(冊)</th> <th>児童図書(冊)</th> <th>紙芝居(冊)</th> <th>計(冊)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>松阪図書館</td> <td>8,340</td> <td>1,793</td> <td>103</td> <td>10,236</td> </tr> <tr> <td>嬉野図書館</td> <td>3,778</td> <td>1,055</td> <td>41</td> <td>4,874</td> </tr> <tr> <td>三雲図書室</td> <td>863</td> <td>555</td> <td>33</td> <td>1,451</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>12,981</td> <td>3,403</td> <td>177</td> <td>16,561</td> </tr> </tbody> </table>									一般図書(冊)	児童図書(冊)	紙芝居(冊)	計(冊)	松阪図書館	8,340	1,793	103	10,236	嬉野図書館	3,778	1,055	41	4,874	三雲図書室	863	555	33	1,451	計	12,981	3,403	177	16,561
	一般図書(冊)	児童図書(冊)	紙芝居(冊)	計(冊)																												
松阪図書館	8,340	1,793	103	10,236																												
嬉野図書館	3,778	1,055	41	4,874																												
三雲図書室	863	555	33	1,451																												
計	12,981	3,403	177	16,561																												
改善案・方向性	平成21年度から指定管理者制度を導入したことから、利用者アンケート等を活用して、利用者ニーズの的確な把握に努め、さらに利用者サービスの向上をめざしていく。																															

評価シート

番号	22
----	----

点検評価対象テーマ【 市民による、市民のための生涯学習の推進 】

事業名	生涯学習振興事業			↑ 達成度	重要度 →			
					A		★	
担当課	いきがい学習課	事業年度	平成22年度		B			
予算・決算	平成21年度決算	13,569千円	平成22年度決算	13,570千円	平成23年度予算	C	B	A
事業目的	住民の教養の向上、健康の増進等を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的として、定期講座の開設や講習会、講演会等を開催し、これらの公民館事業を通じて豊かな学習機会の提供を行なう。							
事業内容	<p>教育振興基本計画等に基づき、松阪市教育ビジョンの実現を図るため、地域課題や住民ニーズに呼応した講座や講演会を45公民館で開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭の教育力向上のための事業を推進する。 ・市、地域、学校が連携して、相互の持つ資源の交流を図りながら、学習機会の質的・量的な向上を推進する。 ・地域住民の交流の場、学びの場としての公民館活動の充実を図る。 							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	公民館のあり方については、市内全域で設立される住民協議会との関わりのなかで、生涯学習・社会教育の継続性等に対して、公民館職員や外部有識者等の意見をうかがいながら、検討協議を進めていく必要がある。							
当該年度の取組	<p>公民館において、住民ニーズ等に応じた学習機会を提供するとともに、その成果を地域住民に還元することで、「知の循環型社会」の実現を図ることを共通目標として、各管内で事業を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生涯学習振興事業(松阪)26館・講座数 292講座・開催日数 664日・受講者延数 11,114名 (内容:パソコン講座、健康講座、環境学習会、外国人文化講座等) ●生涯学習振興事業(嬉野)7館・講座数 165講座・開催日数 500日・受講者延数 3,557名 (内容:しめ縄づくり教室、パソコン講座、料理教室等) ●生涯学習振興事業(三雲)5館・講座数 152講座・開催日数 563日・受講者延数 3,158名 (内容:高齢者虐待防止講座、茶道体験講座、ケータイ安全教室等) ●生涯学習振興事業(飯南)1館・講座数 35講座・開催日数 536日・受講者延数 1,026名 (内容:親子陶芸教室、健康体操、水墨画技術取得講座等) ●生涯学習振興事業(飯高)6館・講座数 62講座・開催日数 232日・受講者延数 984名 (内容:防災頭巾づくり教室、絵本の読み聞かせ、料理教室等) 							
改善案・方向性	地域課題や住民ニーズに呼応した生涯学習振興事業の推進とともに、住民協議会との関わりのなかで事業内容・手法等の精査による公民館運営の改善を図っていく。							

評価シート

番号	23
----	----

点検評価対象テーマ【個性あふれる文化・芸術の振興】

事業名	市美術展覧会開催事業			↑ 達成度	重要度 →		
					A		
担当課	文化課	事業年度	平成22年度		B		★
					C	B	A
予算・決算	平成21年度決算	2,293千円	平成22年度決算	2,217千円	平成23年度予算	2,638千円	
事業目的	<p>松阪地域の美術文化の祭典として、住民の美術創作意欲を高めるとともに、美術に対する理解を深め、松阪地域の美術水準の向上を図る。</p>						
事業内容	<p>松阪市で唯一の公的な美術展覧会として、「絵画」「彫刻・工芸」「写真」「書道」の4部門で開催する。</p>						
複数年にわたる事業の場合進捗度等							
検討課題	<p>市民公募の運営委員を中心に、専門家や芸術家の意見を取り入れ、運営のあり方などを検討する必要がある。</p>						
当該年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ○運営委員会の開催 ○審査委員の決定 ○開催要項、ポスターの作成及び配布 ○作品募集 ○審査 ○審査結果の発表 ○展覧会の開催 ○入賞者の表彰 						
改善案・方向性	<p>出品作品の多様化に対応できる部門や次世代の人材発掘ができるような運営のあり方を運営委員会で検討した結果、平成21年度からは従来の6部門を「絵画」「彫刻・立体」「写真」「書道」の4部門に変更し、平成22年度は「彫刻・立体」を「彫刻・工芸」に名称変更するなど、出品しやすい環境づくりに努めている。</p>						

評価シート

番号	24
----	----

点検評価対象テーマ【個性あふれる文化・芸術の振興】

事業名	歴史的建造物公開事業			↑ 達成度	重要度 →		
					A		
担当課	文化課	事業年度	平成22年度		B		★
					C	B	A
予算・決算	平成21年度決算	2,667千円	平成22年度決算	2,691千円	平成23年度予算	2,860千円	
事業目的	<p>殿町の重要文化財「御城番屋敷」及び市場庄町の町屋「いちのや」を一般公開することにより、市民や市外からの来訪者に歴史的遺産の保全や活用をアピールする。</p>						
事業内容	<p>「御城番屋敷」及び「いちのや」を所有者から借り受け、一般公開を行う。</p>						
複数年にわたる事業の場合進捗度等							
検討課題	<p>古い建造物であるため、維持管理には様々な課題があるが、所有者の協力と理解を得ながら、文化財保護の意義や歴史という視点からのまちの魅力について広く理解が得られる場としていく必要がある。</p>						
当該年度の取組	<p>「御城番屋敷」及び「いちのや」を所有者から借り受け、一般公開を行った。</p>						
改善案・方向性	<p>「いちのや」は契約満了となり閉館したが、御城番屋敷の公開は、国史跡となった松坂城跡や平成24年10月公開予定の武家屋敷・原田二郎旧宅などと連動しながら広がりをもった活用方法を図っていく。</p>						

評価シート

番号	25
----	----

点検評価対象テーマ【個性あふれる文化・芸術の振興】

事業名	天白遺跡保存整備事業				↑ 達成度	重要度 →		
	担当課	文化課	事業年度	平成21年度～平成22年度		A	B	C
予算・決算	平成21年度決算	15,147千円	平成22年度決算	19,966千円	平成23年度予算	0千円		
事業目的	西日本最大の配石遺構をもつ縄文時代の遺跡として学術的に高く評価されている国指定史跡の天白遺跡を整備し、市民の憩いの場とする。							
事業内容	平成21年度・22年度の2カ年で約14,000㎡の史跡地を整備する。							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	2年計画の2年目であり、計画通りに事業を達成できた。							
検討課題	天白遺跡は、市の中心地から離れていることに加え、歴史的建造物や古墳などの目玉がないことから、いかにして人を引き寄せるかが大きな課題である。							
当該年度の取組	平成22年度は、史跡内園路・便益施設の整備、駐車場・案内標識の設置等の周辺整備を行った。							
改善案・方向性	地元自治会やNPO法人などと連携し、市民が参加しやすい催しを開催するなど、遺跡の活用を図っていく。							

評価シート

番号	26
----	----

点検評価対象テーマ【個性あふれる文化・芸術の振興】

事業名	松阪城跡保存管理計画策定事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		
担当課	文化課	事業年度	平成21年度～平成23年度					★
						C	B	A
予算・決算	平成21年度決算	1,412千円	平成22年度決算	785千円	平成23年度予算	8,014千円		
事業目的	県史跡松阪城跡の価値を再確認し、今後のあるべき姿について検討する。							
事業内容	松阪城跡の今後の保存と管理の方法を専門家、市の関係部局で検討し、保存管理計画を策定する。							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	3年計画の2年目であり、ほぼ順調に達成しつつある。							
検討課題	松阪全体の貴重な城跡を今後も保存・活用していくために、その方策や目指すところを一冊の本にまとめるが、市民や県の意見も必要であり、専門家だけでない幅広い意見交換が必要である。							
当該年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ○松阪城跡保存管理計画策定委員会の開催 ○松阪城跡シンポジウムの開催 							
改善案・方向性	策定委員会へ市民の代表2名を入れた。また、平成23年2月7日に国史跡に指定されたため、国の意見も聴いていく。							

評価シート

番号	27
----	----

点検評価対象テーマ【個性あふれる文化・芸術の振興】

事業名	文化財保存整備事業			↑ 達成度	重要度 →		
					A		
担当課	文化課	事業年度	平成20年度～平成22年度	B			★
				C			
予算・決算	平成21年度決算	16,489千円	平成22年度決算	27,724千円	平成23年度予算	4,366千円	
事業目的	<p>国・県・市指定の文化財の適正な保存管理と活用を図るため、市内に所在する指定文化財の修理に対して、補助金を交付することにより、本市の歴史・文化または自然を理解し、地域の特性を考えるために欠くことのできない大切な文化財を後世につなげていく。</p>						
事業内容	<p>貴重な文化財を末永く保存するため、指定文化財の管理または修理に要する費用について、所有者または管理団体に対して補助金を交付するもの。 平成20年度から平成22年度までの3カ年は、重要文化財・御城番屋敷の修理(屋根瓦の葺き替え、構造補強、後世に改造された間仕切りの当初形式への復元など)を行う。この修理に対し、国・県・市が補助をする。 ・総事業費 約206,000千円 ・補助率 国5/10、県1/10、市2/10(所有者2/10)</p>						
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<p>御城番屋敷の修理は3年計画の最終年度であり、計画通りに事業を達成できた。</p>						
検討課題	<p>御城番屋敷は、合資会社・苗秀社の所有であり、修理に当たっては国・県・市の補助があるが、事業費の2割は所有者が負担しなければならない。所有者には、文化財保護法に基づく保護管理が義務付けられており、所有者の負担軽減が今後の文化財保護の課題である。</p>						
当該年度の取組	<p>御城番屋敷東棟の屋根全面葺き替え、構造補強、防災設備設置等を実施した。</p>						
改善案・方向性	<p>所有者の負担軽減のため、県に対して補助金の増額を要望している。</p>						

評価シート

番号	28
----	----

点検評価対象テーマ【個性あふれる文化・芸術の振興】

事業名	原田二郎旧宅保存整備活用事業				↑ 達成度	重要度 →		
	担当課	文化課	事業年度	平成22年度～平成24年度		A	B	C
予算・決算	平成21年度決算	7,770千円	平成22年度決算	30,492千円	平成23年度予算	33,149千円		
事業目的	殿町の武家屋敷の楨垣が残る景観保全地域において、財団法人原田積善会から江戸時代末の武家屋敷の建物(原田二郎旧宅)と敷地の寄贈を受けたため、武家屋敷の復元を主とし、原田二郎を顕彰する施設として整備し、公開・活用を図っていく。							
事業内容	武家屋敷の復元を主とし、原田二郎を顕彰する施設として整備する。							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	3年計画の1年目であるが、順調に進んだ。							
検討課題	限られた財源の中で、いかに効果的に修理し、武家屋敷と原田二郎という偉人を見せられるか。また、原田二郎という人物をいかに市民に周知できるかが課題である。							
当該年度の取組	建物半解体修理工事を行った。(平成23年度まで工事)							
改善案・方向性	専門家だけでなく、庁内の建設部局等と連携し、情報交換しつつ効率的な修理・公開を行いたい。また、原田二郎という偉人を市民に周知するため、広報等でPRしていく。							

評価シート

番号	29
----	----

点検評価対象テーマ【個性あふれる文化・芸術の振興】

事業名	長谷川家文書調査事業				↑ 達成度	重要度 →		
	担当課	文化課	事業年度	平成20年度～平成24年度		A	B	C
予算・決算	平成21年度決算	3,010千円	平成22年度決算	3,006千円	平成23年度予算	3,021千円		
事業目的	現存する伊勢商人最大規模の住居・土蔵を今に残す長谷川家に伝わる約1万8千点にのぼる文書資料を目録化・資料化することにより、郷土資料の保護に努める。							
事業内容	長谷川家に伝わる約1万8千点にのぼる文書資料を目録化・資料化する。							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	5年計画の3年目であり、順調に進んでいる。							
検討課題	長谷川家所有の貴重な資料であるため、外部へ持ち出して調査することが不可能であり、長谷川家の部屋を借用して調査をしているが、調査場所及び調査方法が検討課題となっている。							
当該年度の取組	長谷川家において22回の文書調査を行い、文書約11,400点、書籍67箱分を終了した。							
改善案・方向性	資料を一通り調査した後、再度の検討段階には長谷川家の許可を得て、少数であれば外部へ持ち出して調査の残りを実施していきたい。							

評価シート

番号	30
----	----

点検評価対象テーマ【個性あふれる文化・芸術の振興】

事業名	嬉野ふるさと会館施設整備事業			↑ 達成度	重要度 →			
					A			
担当課	文化課	事業年度	平成22年度		B		★	
予算・決算	平成21年度決算	1,336千円	平成22年度決算	10,767千円	平成23年度予算	C	B	A
事業目的	施設利用者が快適に、安心して利用できる施設とする。							
事業内容	施設の老朽化による安全の確保及び施設利用者の快適性の確保を行う。							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	平成5年の開館以来18年が経過し、改修を必要とする箇所が多くある。計画的な改修が必要である。							
当該年度の取組	舞台音響設備改修工事							
改善案・方向性	財政状況が厳しい中ではあるが、快適に安心して利用できる施設にするために、選択をしながら、計画的に改修を進めていく。							

評価シート

番号	31
----	----

点検評価対象テーマ【個性あふれる文化・芸術の振興】

事業名	松浦武四郎誕生地保存整備活用検討事業			↑ 達成度	重要度 →		
					A		
担当課	文化課	事業年度	平成21年度～平成26年度	B			★
				C			
予算・決算	平成21年度決算	859千円	平成22年度決算	507千円	平成23年度予算	5,621千円	
事業目的	郷土の偉人・松浦武四郎の功績を後世に伝えていくため、資料などにより武四郎を知る松浦武四郎記念館とは別に、武四郎の育った環境を体感し、武四郎に触れる場として、市指定史跡の松浦武四郎誕生地を整備する。						
事業内容	文化財、建造物の専門家や地域住民らで構成する委員会を組織し、松浦武四郎誕生地の具代表的な整備内容や活用方法を検討する。						
複数年にわたる事業の場合進捗度等	ほぼ順調に進んでいる。						
検討課題	史跡の保存・活用にあたっては、地域住民の理解と連携のもとに適切に管理し、文化財として貴重な建物をどのように整備・活用していくかが課題である。						
当該年度の取組	整備検討委員会の開催						
改善案・方向性	財政状況を十分考慮しながら、具体的な整備内容や活用方法を検討していく。						

評価シート

番号	32
----	----

点検評価対象テーマ【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】

事業名	全国大会等出場派遣支援事業				↑ 達成度	重要度 →		
	担当課	事業年度	平成22年度			A	B	★
予算・決算	平成21年度決算	6,202千円	平成22年度決算	7,620千円	平成23年度予算	C	B	A
事業目的	<p>予選を勝ち抜いて全国大会等に出場する選手等に激励金を交付するとともに、全国大会等で3位以内に入賞した選手等に勲功賞を授与することによって、本市のスポーツ振興を図る。</p>							
事業内容	<p>○激励金の交付 予選を勝ち抜いて全国大会に出場する選手等に対し、1人につき10,000円の激励金を交付する。（国際大会は50,000円、オリンピックは100,000円） ○勲功章の授与 全国大会、国際大会で3位以内に入賞した選手等に勲功賞を授与する。</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	<p>この事業は、スポーツ振興基金を財源としているが、近年、全国大会の出場者が増えていることなどから、基金が減少してきている。基金を活用したこの事業を今後も維持していくためには、制度の効率的な運用が必要である。</p>							
当該年度の取組	<p>平成22年度実績 ○激励金の交付 51団体629人、個人251人 計880人 ○勲功章の授与 2団体16人、個人45人 計61人</p>							
改善案・方向性	<p>制度の効率的な運用を図るため、交付対象者の見直しなどを行う。</p>							

評価シート

番号	33
----	----

点検評価対象テーマ【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】

事業名	スポーツ大会等運営事業			↑ 達成度	重要度 →		
					A		★
担当課	スポーツ振興課	事業年度	平成22年度		B		
予算・決算	平成21年度決算	2,521千円	平成22年度決算	2,350千円	C	B	A
	事業目的	市民に様々なスポーツの場を提供するために、各種のスポーツ大会を開催する。					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭婦人バレーボール大会の開催 ○市民ソフトバレーボール大会の開催 ○グラウンドゴルフ大会の開催 ○卓球大会の開催 ○児童水泳記録会の開催 ○各地区体育振興会スポーツ事業の開催 など 						
複数年にわたる事業の場合進捗度等							
検討課題	一人でも多くの市民が気軽に参加できるように、大会運営方法や競技種目を検討する必要がある。						
当該年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭婦人バレーボール大会の開催・・・480人参加 ○市民ソフトバレーボール大会の開催・・・462人参加 ○グラウンドゴルフ大会の開催・・・243人参加 ○卓球大会の開催・・・中学生の部293人、一般・小学生の部138人参加 ○児童水泳記録会の開催・・・181人参加 など 						
改善案・方向性	すべての事業を見直し、大会運営方法や競技種目を検討する。						

評価シート

番号	34
----	----

点検評価対象テーマ【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】

事業名	シティマラソン大会事業				↑ 達成度	重要度 →		
	担当課	事業年度	平成22年度			A	B	★
予算・決算	平成21年度決算	3,500千円	平成22年度決算	3,000千円	平成23年度予算	C	B	A
事業目的	マラソンを通して、参加者相互の交流親睦を深めながら、健康の保持増進や体力の向上を図るとともに、市外・県外の参加者に松阪市の魅力をアピールする。							
事業内容	競技種目 ○10kmの部 ○5kmの部 ○3kmの部 ○ペアジョギングの部 ○ウオーキングの部							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	参加者の満足感や達成感を高め、大会をさらに盛り上げるためには、魅力あるコースの設定とともに、イベントの充実や協賛スポンサーの獲得、スタッフの充実など、運営に一層の創意工夫が必要である。							
当該年度の取組	平成22年度の第6回大会では、参加者のアンケートなどを参考に様々な改善を行った。特に国道166号の一部をコースに取り入れたことは、参加者に好評で、過去最高の2,446人の参加申し込みがあった。							
改善案・方向性	健康や生涯スポーツに対する関心が年々高まっていることから、松阪シティマラソンの必要性や意義はますます強まるものと思われる。そうした中で、参加者を増やし、大会をさらに盛り上げるためには、魅力あるコースの設定が欠かせない。沿道の応援はランナーの励みになり、大会を盛り上げるが、沿道の応援や交通量の多い道路は、これまで以上に警察署等と交通規制等の協議が必要になる。コースの検討に当たっては、要望のあるハーフマラソンの導入も検討していかなければならない。							

評価シート

番号	35
----	----

点検評価対象テーマ【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】

事業名	体育施設整備事業			↑ 達成度	重要度 →		
					A		★
担当課	スポーツ振興課	事業年度	平成22年度		B		
予算・決算	平成21年度決算	1,218千円	平成22年度決算	4,970千円	C	B	A
	事業目的	誰もが生涯にわたってスポーツに親しむことができるよう、体育施設の整備を進める。					
事業内容	○雲出川河川敷グラウンド水道管埋設 ○松阪公園グラウンド本部席空調設備設置						
複数年にわたる事業の場合進捗度等							
検討課題	生涯スポーツの振興を図るためには、安全、快適に利用できる体育施設の整備が不可欠であるが、市内には老朽化した施設が数多くあり、こうした施設の整備と維持管理が大きな課題である。						
当該年度の取組	○雲出川河川敷グラウンド水道管埋設 ○松阪公園グラウンド本部席空調設備設置						
改善案・方向性	良好な状態の体育施設を市民に提供していくためには、計画的な整備が必要であるが、厳しい財政状況の下では、利用状況や緊急性、必要性を十分考慮しながら、優先順位をつけて、効率的に整備していかなければならない。						

評価シート

番号	36
----	----

点検評価対象テーマ【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】

事業名	中部台運動公園施設整備事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		★
担当課	中部台管理事務所	事業年度	平成22年度		B			
					C			
予算・決算	平成21年度決算	16,978千円	平成22年度決算	577千円	平成23年度予算	0円		
	事業目的	危険防止のため、老朽化及び長年の利用による損傷の改修を行い、市民の皆様にやさしい施設になるよう良好な状態にして利用者の期待にこたえる。						
事業内容	松阪市天体観測施設雷対策工事							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	当公園施設の老朽化による改修は多くなっている。計画的に改修を行っているが、突発的に修繕を要することもあり十分注意し管理に努めたい。							
当該年度の取組	松阪市天体観測施設は中部台運動公園の高台にあり、落雷による天体望遠鏡及び電動操作機器の損傷を防止するための工事を施工した。							
改善案・方向性	当該施設の安全性や利便性を高め、利用者サービスの向上を図って行くことが重要であり継続的に改修等に努めていきたい。							

点検評価対象テーマ【新しい教育の創造】

事業名	地域材活用学校環境整備事業			↑ 達成度	重要度 →		
					A		★
担当課	教育総務課	事業年度	平成22年度		B		
予算・決算	平成21年度決算	39,300 千円	平成22年度決算	40,711 千円	平成23年度予算	10,209 千円	A
事業目的	木に親しむ環境づくりと地場産業の活性化を目的に整備を行う。 一人の児童が6年間同じ机・椅子を使うことで、愛着を持ってものを大切に扱う心が育まれる。						
事業内容	市内小学校に対し、地域材を利用した木製の机・椅子を導入整備する。 1年生時に貸与された1セットの木製机椅子を、卒業までの6年間マイデスクとして使用する。 平成18年度よりこの事業を実施しすでに5学年分が整備され、平成22年度ですべての学年分の木製机椅子を整備する。						
複数年にわたる事業の場合進捗度等							
検討課題	今後もデザインや統一性などの点から、これまでと同一製品による整備をしていきたい。						
当該年度の取組	新入学生分及び補充分として、木製の机と椅子1,500組を購入した。 机天板等の備品補修として、天板再塗装、天板研磨を行った。 木製机交換用の天板(ウレタン塗装品)を購入した。						
改善案・方向性	6年生が卒業後は新1年生が机を使用することになるが、著しく痛んでいる机は天板の取替えを行う。 平成24年度以降の新入生については、前年度の6年生が使用していた机椅子を使うことになるため、天板を交換して使用していく。その取り外した天板は、平成25年度交換用に再利用するため天板を削りUV塗装を行う。						

評価シート

番号	38
----	----

点検評価対象テーマ【新しい教育の創造】

事業名	豊地幼稚園園舎耐震事業			↑ 達成度	重要度 →		
					A		★
担当課	教育総務課	事業年度	平成21年度～平成22年度		C	B	A
予算・決算	平成21年度決算	1,284千円	平成22年度決算	12,915 千円			
事業目的	幼稚園生活における園児の安全、安心の確保を図る。						
事業内容	豊地幼稚園(昭和56年月建築 鉄骨造 延床面積 419㎡)は、平成18年度に行った耐震診断の結果、耐震指標を示すIs値が基準を下回っていることから耐震性を高める耐震補強工事を実施する。						
複数年にわたる事業の場合進捗度等	平成21年度に園舎の耐震補強のための実施設計を行い、平成22年度に耐震補強工事を実施する。						
検討課題	工事を進めるにあたっては安全管理を徹底するとともに、園児の幼稚園生活等に不都合が生じないように幼稚園、工事関係者との協議を十分行っていく必要がある。						
当該年度の取組	豊地幼稚園(延床面積 419㎡)の園舎耐震補強工事を実施した。 園舎耐震補強工事、工事監理業務委託						
改善案・方向性	耐震補強工事が完了したため、今後は施設の適正な維持管理に努めていく。						

評価シート

番号	39
----	----

点検評価対象テーマ【新しい教育の創造】

事業名	中原幼稚園園舎改築事業			↑ 達成度	重要度 →		
					A		
担当課	教育総務課	事業年度	平成22年度～平成23年度	B			★
				C			
予算・決算	平成21年度決算	0 千円	平成22年度決算	5,004 千円	平成23年度予算	137,454 千円	
事業目的	幼稚園生活における園児の安全、安心の確保を図る。						
事業内容	中原幼稚園は、築36年が経過し老朽化が進んでいる上に、平成18年度に行った耐震診断の結果、耐震指標を示すIs値が基準を下回っていることから園舎の改築を行う。						
複数年にわたる事業の場合進捗度等	平成22年度に改築のための実施設計、地質調査を行い、平成23年度に改築工事を行う。 新園舎は、鉄骨造平屋建て 482㎡						
検討課題	工事を進めるにあたっては安全管理を徹底するとともに、園児の幼稚園生活等に不都合が生じないように幼稚園、工事関係者との協議を十分行っていく必要がある。						
当該年度の取組	中原幼稚園園舎改築工事 設計業務委託、地質調査業務委託						
改善案・方向性	旧園舎を取り壊し、現在の場所に新園舎を建築するため、仮園舎として中原小学校の教室を一部改造して利用する。						

評価シート

番号	40
----	----

点検評価対象テーマ【新しい教育の創造】

事業名	中川小学校校舎増築事業			↑ 達成度	重要度 →		
					A		★
担当課	教育総務課	事業年度	平成21年度～平成22年度		B		
予算・決算	平成21年度決算	6,014千円	平成22年度決算	198,579 千円	平成23年度予算	0 千円	A
事業目的	伊勢中川駅周辺土地区画整理事業により中川小学校区内の人口が急速に増加し、これに伴い小学校への入学者が急増し、平成23年度以降教室不足が生じる状況となることから、校舎増築により教室不足数を解消し、教育環境を整える。						
事業内容	児童数増加に伴う教室不足を解消するため校舎増築を行う。						
複数年にわたる事業の場合進捗度等	平成21年度に校舎増築の実施設計・地質調査を行い、平成22年度に増築工事を実施する。						
検討課題	施設整備に当たっては、児童の学校生活等に不都合が生じないよう学校関係者と十分協議のうえ実施する必要がある。						
当該年度の取組	鉄骨造2階建て(普通教室3室)、鉄筋コンクリート造3階建て(普通教室2室、コンピュータ教室1室)の増築を行った。 増築工事に併せて、学級増に伴って職員が増となる既設職員室の改修、駐車場整備、エレベーター設置工事等を実施した。						
改善案・方向性	増築工事が完了したため、今後は、施設の適正管理に努めたい。						

評価シート

番号	41
----	----

点検評価対象テーマ【新しい教育の創造】

事業名	松ヶ崎小学校プール改築事業			↑ 達成度	重要度 →		
					A		★
担当課	教育総務課	事業年度	平成21年度～平成22年度		B		
予算・決算	平成21年度決算	31,177 千円	平成22年度決算	55,081千円	C	B	A
	平成23年度予算	0 千円					
事業目的	昭和56年度に建築された松ヶ崎小学校のプールは、経年とともに老朽化が著しく、機械設備の劣化、漏水が発生するなど学校教育に支障をきたすため改築を実施する。						
事業内容	繰越事業としての改築工事を行う。 新しいプールはステンレス製、水面積250㎡						
複数年にわたる事業の場合進捗度等	平成21年度測量設計、実施設計を実施し、プール改築工事に着手した。 改築に当たりプールの構造や価格を明確にするため、コンペ方式を採用したことから、プール仕様等の決定に日時を要し、年度内完成が見込めなくなったため平成22年度に繰越を行った。						
検討課題	工事を進めるにあたっては安全管理を徹底するとともに、児童の学校生活等に不都合が生じないように松ヶ崎小学校および工事関係者等との協議を十分行っていく必要がある。						
当該年度の取組	松ヶ崎小学校プール改築工事 完成年月日：平成22年 6月 16日						
改善案・方向性	プール改築工事が完了したため、今後は施設の適正管理に努めたい。						

評価シート

番号	42
----	----

点検評価対象テーマ【新しい教育の創造】

事業名	嬉野中学校屋内運動場耐震事業			↑ 達成度	重要度 →		
					A		
担当課	教育総務課	事業年度	平成22年度～平成23年度	B			★
				C			
予算・決算	平成21年度決算	0 千円	平成22年度決算	5,060 千円	平成23年度予算	206,042 千円	A
事業目的	耐震補強工事により、安心・安全な教育環境の整備が図られる。						
事業内容	嬉野中学校屋内運動場・武道場は、平成16年度に行った耐震診断の結果、耐震指標を示すIs値が基準を下回っていることから耐震性を高めるため、耐震補強工事を行う。 また、築38年が経過し外装、内装の老朽化が著しいため、併せて大規模改造工事を実施する。						
複数年にわたる事業の場合進捗度等	平成22年度に大規模改造のための実施設計を行い、平成23年度に改築工事を行う。						
検討課題	工事を進めるにあたっては安全管理を徹底するとともに、学校生活等に不都合が生じないよう嬉野中学校、工事関係者との協議を十分行っていく必要がある。						
当該年度の取組	嬉野中学校屋内運動場耐震工事実施設計業務委託						
改善案・方向性	完成期限の完成をめざして屋内運動場耐震工事を進めていく。						

評価シート

番号	43
----	----

点検評価対象テーマ【新しい教育の創造】

事業名	中学校施設維持修繕事業			↑ 達成度	重要度 →		
					A		★
担当課	教育総務課	事業年度	平成22年度		B		
予算・決算	平成21年度決算	24,429 千円	平成22年度決算	20,522 千円	平成23年度予算	23,480 千円	A
事業目的	生徒および教職員が一日の大半を過ごす学校施設を安全で良好な状態に維持するとともに、時代の要請に応じた施設水準を確保する。						
事業内容	各学校施設の修繕工事等を実施する。						
複数年にわたる事業の場合進捗度等							
検討課題	校舎、屋内運動場等の老朽化が進んでいるため、維持修繕にかかる経費がかさんでいる。 多額の経費を要する修繕工事については、年次的計画的に進める必要がある。						
当該年度の取組	○主な維持修繕工事の内容 殿町中学校 : 屋内運動場防水改修工事 東部中学校 : 屋内運動場2階床改修工事 中部中学校 : 武道場床改修工事 西中学校 : 教室照明増灯工事 飯南中学校 : ガス暖房設備改修工事 など						
改善案・方向性	施設維持修繕工事については、緊急の場合を除き、主に夏休み期間を中心にした工事となるため、進捗状況の把握や校舎等の使用制限など中学校関係者との調整を十分に行い工事を実施していく。 また、類似工事について、まとめて発注することでコスト軽減を図っていく。						

IV 教育委員会の活動状況

1. 活動状況

(1) 委員選任状況

(平成23年3月末現在)

職名	氏名	任期
委員長	前田 昭徳	自 平成20年2月26日 至 平成24年2月25日
委員長職務代理者	中村 真子	自 平成21年2月26日 至 平成25年2月25日
委員	長谷川直樹	自 平成22年2月26日 至 平成26年2月25日
委員	長島喜久雄	自 平成23年2月26日 至 平成27年2月25日
教育長	小林 壽一	自 平成21年3月25日 至 平成25年3月24日

※教育委員（教育長を含む。）任期は4年間。

(2) 会議の開催状況

定例会	12回（毎月1回）
臨時会	3回

(3) 審議状況

ア 付議案件数

議案	26件
報告	70件

イ 審議された主な議案等

- (1) 教育委員会規則等の制定・改正に関すること。
- (2) 人事に関すること。
- (3) 教育施策に関する基本的な方針に関すること。
- (4) 市議会に提出する条例改正、予算等に関すること。
- (5) 文化財に関すること。
- (6) 審議会等委員の委嘱に関すること。

(4) 研修及び学校訪問等

教育委員会の教育委員、教育関係者を対象にした三重県、三重県市町教育委員会連絡協議会主催の研修会に参加し、組織マネジメントの観点から見た学校、教育のあり方について研修しました。さらに、先進地の教育、教育行政を視察・研修する

ため、静岡県富士宮市教育委員会、富士宮市立富丘小学校を訪問し、幼保・小中の連携による「魅力ある学校づくり」や先進のスポーツ施設の運営についての取り組みを視察しました。

また、教育現場等の状況を教育委員が直接見聞する機会として、三雲南幼稚園、鵜小学校、第一小学校、三雲中学校等の研究発表会に参加し、校園長から教育の取り組みについて説明を受け、意見交換を行いました。さらには、文化施設の情報収集のため、文化財センターを視察し、職員から説明を受けました。松阪市内の子ども支援研究センター、鈴の森教室、いっぽ教室、育ちサポート室などの教育施設の視察も行いました。

2. 今後の取り組み

松阪市教育委員会は、複雑化・多様化する教育課題に対応し、松阪市教育ビジョンで提案した夢ナビゲーションを実現するため、地域の学校に出向いて意見交換を行ったり、文化施設を視察するなど、教育委員会活動の一層の充実に取り組みました。

今後、さらに教育委員会事務局との一層の連携を図るとともに、その状況を直接見聞するため、学校教育現場や教育施設を積極的に訪問し、新しい情報収集、意見交換に努めます。さらに先進地の教育行政の視察や県教育委員会主催の研修会に参加することにより見識を広め、今後の教育施策に反映させていきたいと考えています。

V 第三者評価

1. 第三者評価委員

名 前	所 属 等
田川 敏夫	元三重中京大学客員教授（元松阪市教育ビジョン構築検討委員会委員長）
森 吉男	松阪市社会教育委員長
太田 憲明	松阪市PTA連合会会長

2. 第三者評価の総評

【田川敏夫委員】

(1) はじめに

松阪市教育委員会は、平成19年12月に「松阪市教育ビジョン」を策定した。平成22年度は、その実施年度の3年目に当たる。当ビジョンは、10年間を目途とした中・長期計画であることから、事業計画がどこまで進捗し、また、どういった課題があるのか点検・評価で明らかにする必要がある。その意味で、本年度の報告書は、昨年度と比較して大幅に改善がみられ、その努力は高く評価できる。

(2) 評価の方法について

夢ナビゲーションの6項目は維持されているが、事業名が56事業から43事業に整理され、当該年度の必要性に沿ったものとなっている。

また、評価方法が大幅に改善され、「達成度」「重要性」「総合評価」の3項目にまとめたのは、わかりやすくなった。さらに、「事業年度」「決算額」も新たに表にされた。評価シートも3ヶ年の予算・決算を明記し、「複数年にわたる事業の場合の進捗度」や「当該年度の取組」の項目をつくり、事業の継続性や達成状況が評価できるようになった。しかし、事業によっては記入のないシートもある。単年度事業を除いて進捗状況は明らかにできると思われる。空白欄のないよう、より一層の工夫が望まれる。

教育委員会の活動については、開催状況、審議状況等適切であるが、学校・園や諸施設の訪問は、できる限り増やす努力がさらに望まれる。その際、校長・園長の説明を受けるだけでなく、児童・生徒たちとの対話、教職員との意見交換の機会を持つと、もっと良いと思われる。

(3) おわりに

松阪市教育委員会は、市民代表による教育ビジョン策定を他の市町に先駆けて実施した。そのアクションプランは、着実に具体化され、教育成果を挙げている。この点検・評価報告書が、そのさらなる推進力となることを期待するものである。

【森 吉男委員】

- (1) 学校教育環境の整備は、以前と比べて人的、物的共に整備充実されてきたと感じます。

欲を言えば、空間環境とでも言うか、うるおい、情緒、やる気、明るさ、暖か味などを児童生徒自身の発想や営みでこれらのことが育っていけば一段と輝きが増すと思います。

- (2) 近年、様々な形や手法で学校支援ボランティア活動が進められている。

地域住民が子ども達の健やかな成長を願い活躍されていることが地域の活性化に結びついている。

子ども読書活動や安全安心な環境づくり、パトロール見守り、交通安全を中心に登下校事故の未然防止などを含め、健全育成活動、スポーツ、レクリエーション活動等、多くの活動が育ち、立派な成果を挙げている。

今後、一層連携を深め、「みんなで支える学校、みんなで育てる子ども」をめざし、松阪市が提唱している「住民協議会」が動きだせば、自ずから共育されていくと思います。

- (3) 伝えられるところ

自然災害が、「いつ」、どの様な状態で発生するか、難しいが議論を交すなど取り組みはどうか。「転ばぬ先の・・・」対応に苦慮されていると考えます。

今後の一層の業績充実し、発展していくことをご期待申し上げます。

【太田憲明委員】

全体的には、事業の重要度が高いにもかかわらず、達成度が「A」になっていない事業が多くあり残念です。

PTA連合会として、保護者、教職員、地域の方々、教育委員会、教育にかかわる全ての方々との意見交換ができる機会が少なくなっていることに対して、これからは、そのような場を積極的に作ることに全力でサポートしていきたいと思えます。